

令和7年度学校経営報告書

八王子市立由木中学校長 山田 任代
同 副校長 鈴木 啓太

1 目指す学校 「共に学び、笑顔あふれる学校」

(1) 目指す学校像

- ①一人一人と集団、多様性を大切にする愛情ある学校
- ②健全で安心して過ごせる学校
- ③意欲を高め、知識や学力を定着させる学校
- ④考え、粘り強く取り組む学校
- ⑤家庭・地域、関連機関と力を合わせる学校

(2) 目指す生徒像

- ①自分も自分以外の多様性も大切にする優しい生徒
- ②心身が健康で強く逞しい生徒
- ③向上心と主体性をもって意欲的に切磋琢磨する生徒
- ④自ら考え、粘り強く行動する生徒
- ⑤社会や集団の一員としての役割を進んで果たす生徒

(3) 目指す教職員像

- ①個と集団、多様性を尊重する愛情あふれる教職員
- ②誠実で信頼・尊敬される教職員
- ③やる気にさせる指導力のある教職員
- ④考えさせ、正しい行動に導く粘り強い教職員
- ⑤一人で抱え込まず組織で対応する教職員

(4) 目指す家庭像・地域像

- ①愛情あふれ、子どもが相談できる家庭と地域
- ②健全で活気ある地域
- ③子どもの安全と成長を見守る地域
- ④子どもの幸せを願い、前進し続ける家庭
- ⑤子どもの手本となり、憧れの存在である大人

生徒・保護者によりアンケート結果で「学校の経営方針を知っている。」は「知っている」等の肯定的評価が71.8%、「分からない」「知らない」の否定的評価が13.9%で、保護者に学校だよりやホームページを活用し、発信するとともに、本校のビジョンが理解できるようコミュニケーションをとっていく。

来年度【個に応じた学習の推進と学習課題（問題）の工夫】【不登校が生じない学校づくりと支援】【いじめの予防と対応】【指導法の工夫と授業改善】◆【インクルーシブ教育の推進】を重点課題として、さらに掘り下げて取り組んでいく計画である。

「生徒の人権の尊重」については、引き続き気を引き締めて取り組んでいく。「生活指導」については、現状に甘んずることなく、家庭・地域の協力を得ながら取り組んでいく。「PTA活動や地域行事」及び「情報発信」については、多くの者が参加したり情報発信したりできるよう心がけていきたい。

2 中期（3年程度）的な目標と方策

中期目標1 【教】学力の定着と向上（教育目標3／知）

- (1) 一人一台パソコンを有効に活用し、個の課題とスピードに対応した授業を展開する
- (2) 主体的に学習に向かう態度を向上させる
- (3) コミュニケーション力を向上させる
- (4) (主体的・対話的で深い学びの推進) 友人からも学び、切磋琢磨する
- (5) 学力を定着させ、学んだことをさらに深く探究し、活用する

中期目標2 【進】豊かな心とキャリア形成（教育目標1／徳・体）

- (1) 愛情を育み、心を豊かに大きくする
- (2) 好ましい関係を築けるようにする
- (3) 適切な進路を選択し、その道を歩む
- (4) 一人一人の能力や個性を伸長する

中期目標3 【生】心身の健康と好ましい生活態度の育成（教育目標2／体・徳）

- (1) 健康や体力向上に努めようとする
- (2) 自分の命は自分で守れるようにする
- (3) SNS等を正しく使用できるようにする
- (4) 地域や社会に貢献できるようにする

中期目標4 【連】家庭・地域との連携

- (1) 地域のボランティア活動・自治的活動に参加する
- (2) 主体性のある学校運営協議会、PTAをつくる
- (3) PTAによる保護者研修を進める
- (4) 小・中学校で連携してできることを増やす

中期目標5 誇りある教職員と組織的対応（教育目標1・2・3／徳・体・知）

- (1) 専門性を深め、視野を広げ、自分を高める
- (2) (働き方改革の推進) 意識改革し、校務改善を進める
- (3) 個々が自立していて組織的なチームにする
- (4) 地域に愛される学校にする

目標1 学力の定着と向上

A 学習意欲を引き出すとともに、指導方法の工夫を行い、個々の学力を確実に定着させる。

- ①【個に応じた学習の推進と学習課題（問題）の工夫】 ②【学習評価の充実】
- ③【意欲・向上心の伸長】 ④【学習指導内容の指導徹底と時間の確保】
- ⑤【少人数習熟度指導の推進】 ⑥【補習と家庭学習】 ⑦【授業規律の徹底と学習姿勢の向上】
- ⑧【適応、習慣付け】 ⑨【学習のまとめりと本時のまとめ】

B 「主体的・対話的で深い学び」を推進し、言葉を使って考え、コミュニケーション力を高める。

- ①【フラーリッシュ理論に基づく指導法の工夫と授業改善】 ②【思考力・表現力の育成】
- ③【言語環境、言語活動の充実】

学力の定着と向上を図るため、授業において説明を重視した板書の工夫、話し合い活動の充実、ICT 機器の効果的な活用などに継続的に取り組んできた。その結果、授業の分かりやすさ等に関する生徒アンケートでは、95%が肯定的に回答しており、取組の成果と向上の進捗が確認できる。一方、家庭学習の習慣に関しては、生徒の肯定的回答が95%であるのに対し、保護者の肯定的回答は60%となっており、捉え方に差が見られる結果となった。

目標2 豊かな心とキャリア形成

A 多様性を尊重し、自分も他者も、生物や自然も大切にできる態度を身に付けさせ、愛情豊かな生徒を育成する。

- ①【大切にできる態度の育成】 ②【体験による豊かな心情の育成】
- ③【特別活動の充実】 ④【探究的な学習の推進】 ⑤【学校図書館の活用】
- ⑥【校内研究の推進】

B 道徳の時間と学級活動を充実させ、心を豊かにし規範意識や人間関係力を身に付ける。

- ①【道徳教育の推進】 ②【学級活動の充実】 ③【学校行事等の充実】
- ④【計画的な指導と適切な位置付け】

C 勤労生産体験活動などのキャリア教育やボランティア活動を推進し、社会に貢献できる個人の育成を進める。

- ①【キャリア教育の推進】 ②【ボランティア活動の推進】

第3学年の修学旅行、第1学年の移動教室は予定通り実施できた。宿泊行事を体験させることができ、生徒にとっても事前学習や事後学習の発表で主体的に学ぶ姿勢が身に付いた。第2学年は、職場体験を予定通り実施でき、働くことの意義や社会の一員としての自覚を高めることができた。

朝読書の設定や昼休みの貸し出し、移動図書室の企画、あじみ読書、読書競争、長期休業前の特別貸し出し等で工夫をしているが、電子書籍等の普及も影響している。来年度は、オンデマンドで小学校と連携したビブリオバトル大会を企画し、図書館の効果的な活用を推進する。

目標3 心身の健康と好ましい生活態度の育成

A 好ましい関係づくりを進め、いじめの予防と対応を徹底する。節度ある言動を身に付けさせ、みんなと気持ちよく生活できるようにする。

- ①【いじめの予防と対応】 ②【愛情と共通理解に基づいた指導】
- ③【個に応じた最適な指導法の選択】 ④【インターネット・ゲーム依存と情報モラル指導】
- ⑤【規範意識の育成】 ⑥【礼儀、挨拶、言葉遣い等の定着】 ⑦【人間関係力の育成】
- ⑧【主体性の育成】

B 特別支援教育を推進し、一人一人の能力や個性を伸ばしていく。

- ①【不登校が生じない学校づくりと支援】 ②【個別支援の推進】
- ③【組織的な特別支援教育の推進】 ④【インクルーシブ教育の推進】 ⑤【適正就学の推進】

C 保健体育や食育、保健指導等を通し、健康や体力増進への関心を喚起する。

- ①【健康・体力増進の推進】 ②【駅伝による体力向上】
- ③【家庭と連携した生活習慣の確立】 ④【部活動での健康づくり】 ⑤【昼食指導】

D 保護者・地域・関係諸機関と連携した安全教育を推進するとともに自分の命は自分で守ろうとする態度を育成する。

- ①【種々の安全教育の推進】 ②【自分の命を自分で守る】 ③【情報ツールの活用】
- ④【SNS学校ルールの周知】 ⑤【危険箇所の迅速な対処】

「いじめの予防と対応」「規範意識の育成」「安全教育の推進」などについては生徒アンケートで90%以上が肯定的回答であり一定の成果を上げている。いじめの予防対策は隔週に行うアンケート調査を活用し、早期の訴えにより、聞き取りや対応等が組織的に行われ、早期に解決をすることができた。スクールカウンセラーをメンバーに加えたいじめ対策委員会を毎週火曜に設定し、定例で行うことができた。「不登校が生じない学校づくりと支援」については今年度、不登校傾向の生徒への支援の一環としてサポートルームを開設した。これまで学校に登校することが困難であった生徒のうち5名がサポートルームを利用するようになり、学校内に居場所を確保することができた。欠席が30日以上の不登校生徒は45人（2月末現在）で昨年度は56人（2月末現在）と減少した。引き続き多岐にわたる要因や生徒の特性を理解しながら、子ども家庭支援センターやスクールソーシャルワーカー（SSW）と連携し、個に応じた対応に努めていく必要がある。

目標4 家庭・地域との連携

A 小・中一貫教育を推進し、児童・生徒が健やかに着実に成長できるようにする。

- ①【小・中学校の連携】②【生徒の小学校等への派遣】③【保護者への啓発】

B 家庭・地域・学校支援機関との連携・協働を推進する。

- ①【学校運営及び支援活動への関与】②【手本となる大人、相談できる大人】
③【地域の活用】④【発信と啓発】⑤【PTAへの啓発依頼】
⑥【地域行事等への協力】

小中一貫教育の取組として、運動会における運営補助やリトルティーチャー活動を実施した。生徒が役割を自覚し、主体的にかかわる姿が見られ生徒・保護者アンケートでは80%台の肯定的な評価を得ている。

生徒会と児童会が連携して「はちおうじっ子サミット」での協議を踏まえ、「あじみこし」の周知・定着を図った。

目標5 誇りある教職員と組織的対応

A 自他の研修を進め、人材育成とサービスの厳正に努める。

- ①【研修の奨励】②【自己申告と成果】③【OJTの充実】④【率先垂範、師弟同行】
⑤【法規の遵守とサービスの厳正】⑥【予算の有効活用】⑦【業者等との適切な関係】
⑧【異動や配置転換はキャリアアップの機会】

B 組織的な対応を行い、効果的な教育活動、働き方改革を進める。

- ①【主幹教諭を中枢とした学校運営】②【考え尽した原案と会議の効率化】
③【情報の共有化】④【連絡の徹底】⑤【出張・研修の学校への報告と還元】
⑥【学校評価の活用と改善】⑦【週案の記載と提出】
⑧【共助と気持ちのよい職場環境の推進】⑨【校務改善の推進】⑩【部活動の選択と集中】
⑪【提出物・回答の期限厳守】⑫【主任や委員長が一人で抱え込まない組織運営】

校内研修会では、6月に東京都多摩教育事務所より講師を招き「指導と評価の一体化／評価を見据えた教科指導とは」をテーマに理解を深めた。8月は「特別支援教育を必要とする生徒の評価・評定」をテーマにし、特別支援教育に対する理解を深めさせた。1月には、当市のスクールソーシャルワーカーを講師に招き、「八王子市の不登校生徒対応」について講演をしていただき、グループディスカッションを通して、事例の検証をした。また、2学期の始業式前には、いじめ防止をテーマとする研修会を小中一貫教育グループ（由木東小、由木中央小）で共催し、オンライン形式で実施をした。